

令和元年度 授業改善推進プラン

学校名 池 袋 中学校
校長名 川合 一紀 (公印省略)

1 授業改善の取組に対する自己評価 <評価基準> A満足できる Bおおむね満足できる C改善を要する

No.	項目	内 容	評価	評価の説明
1	実績・取組	30年度の「授業改善推進プラン」に基づく取組の成果	A ・ B ・ C	・新学習指導要領実施に向けて、経営方針の根幹に、自己指導能力の向上を据え、「自己肯定感や自己有用感」の感じられる授業展開と、「主体的・対話で深い学び」が真に生徒個々の内面に根ざすことを重点目標化した。そのため昨年度は言語活動の充実と、考え議論する道徳の展開に注力した。これによりアンケートでは「道徳の授業では自分の考えを書いたり、話し合ったりしている」の項において、87%の達成率を上げている。また、向上した自己肯定感などが「難しいことに出会っても、乗り越える自信がある」の項において、76%の達成率に繋がっていると考えられる。
2	令和元年度学力調査の結果分析	令和元年度学力調査の結果分析から見えた成果や課題等について	A ・ B ・ C	・2学年の結果において、理科の「全国比94」を除き、全教科で全国比を上回り、観点別得点率でも社会の「関心」、理科の「思考」「知識」以外の18観点で全国比を上回っていることが成果である。一方、1学年の結果は、全教科で全国比を下回り、4年間の経年変化でも「小6の指導」の項目で向上を見ない。入学後の1年間で小学校での基礎を再構築している点は成果であるが、小学校での指導展開を把握し、不足を早期に補う授業展開を継続することが課題となる。
3	教員間での課題の共有	教員間で児童・生徒の実態を把握し、課題を共有について	A ・ B ・ C	・例年良好に進行しており、学習課題に於いては全教科で授業改善プランを作成、読み合わせを行っている。また、生活課題について逐一報告・連絡が行われ、それらをデータ化し対応を共有化したり、QU分析会を含めた多角的な共有化が進められている。それらにより、アンケートでは、「学校の授業はよくわかる」で85%、「困ったときに相談できる先生がいる」で81%、「自分は先生から認められている」で79%、そして何より、「学校へ行くのが楽しい」において93%の肯定回答となり、ISSの取り組みと相まって成果につながっている。
4	説明責任	学校の学力向上の取組や内容が保護者に理解について	A ・ B ・ C	・年度初めの保護者会において、評価説明会を行い、学力調査、評価結果についても全校、学年の保護者会で取り上げている。また、学校だより、学年だより等を頻繁に発行し、同時にHPでも校長自ら精神的・内面的な知識や課題を更新するなど、学校の様子を発信するにとどまらず、共同理解につながる情報発信を進めている。また、ISS地域対策委員会や学校運営連絡協議会、保護者会などで、学校の課題や意思を発信し、双方向の情報発信・理解を進めている。

2 自校の教科指導における課題と改善の方策

教科	課題 (分析・考察によって明らかになったこと)	改善の方策	関連する調査項目 (3年生)			
国 語	得点率は区の平均に比べ下回っているが、関心・意欲・態度や話す・聞く能力、書く能力を中心に昨年度よりも得点率が上がっている。しかし、数値の低い、言語に関する知識・理解・技能については改善が必要である。基礎学力の定着のための学習改善を促す必要性がある。	漢字テストや漢字コンクール、授業時に行う辞書を使っての意味調べなど、漢字に触れる時間後増やす。また、自主的に学習する意欲を育てるため、コンクール形式で覚えさせるしかけをつくる。書く力の定着は入試に向けての対策指導を行い、単元ごとに自分の考えや感じ方の変化を書かせたりすることで力を伸ばしていく。	達成率 %		生徒が好きな教科として選んだ割合	
			自校	豊島区	自校	豊島区
			80.0%	86.0%	45.0%	38.3%
社 会	得点率は今年度になり区の平均を上回った。一昨年度、昨年度と徐々に学力を向上させている。観点別で見ると思考・判断と知識・理解の得点率が高くなっているが、資料活用・技能については全国比を下回っており、今後の改善が必要である。	授業ではグラフや表の読み取りを丁寧に行い、単元ごとに小テストをして確認を行う。データを読み取り、そこから求められた解答を導くことに対して苦手意識をもっている生徒が多いので、グループ活動時やテスト後の学び合い活動を通じて、説明したり理解を深めたりする機会を設け、苦手意識を減らす。	達成率 %		生徒が好きな教科として選んだ割合	
			自校	豊島区	自校	豊島区
			79.0%	76.0%	43.0%	31.7%
数 学	得点率は区の平均に比べ下回っているが、数学への感心・意欲・態度が高く、昨年度、一昨年度に比べると徐々にではあるが学力も高まってきている。基礎力と活用力を向上させるための取り組みが必要である。	授業の冒頭に小テストを実施し、1、2年生の復習を繰り返す。関数に苦手意識をもっている生徒が多いので、単元に入る前に補習を行い苦手意識を減らす。授業の演習時やテスト後は教え合い活動を行い、説明したり理解を深めたりする機会を多く設ける。	達成率 %		生徒が好きな教科として選んだ割合	
			自校	豊島区	自校	豊島区
			71.0%	77.0%	51.0%	42.0%
理 科	得点率は区の平均に比べ下回っている。昨年度は少し達成率が上昇していたが、今年度は一年生の時と同じ値まで下がっている。関心度を高めるとともに、基礎力向上させるための取り組みが必要である。	・関心・意欲を高めるために教材・教具の工夫を改めて行う。その一環としてICT機器を用いた授業を増やす。 ・小テストを行い、スモールステップで学力の定着を図る。 ・授業内で演習の時間を設ける。	達成率 %		生徒が好きな教科として選んだ割合	
			自校	豊島区	自校	豊島区
			61.0%	73.0%	27.0%	33.0%
英 語	得点率は区の平均と同率である。領域別得点率では、『読むこと』『書くこと』『聞くこと』は全国平均で上回りはするが、さらに重点的に改善を工夫する必要がある。	・1年生からの基本的な文型をくり返して定着させ応用力につなげる。 ・語彙力を付けさせるためのテストを実施する。 ・長文に慣れさせるため帯活動として80語～100語程の文章を読ませQ&Aを解かせる。 ・聞き取り練習ではディクテーションを中心に取り組ませる。	達成率 %		生徒が好きな教科として選んだ割合	
			自校	豊島区	自校	豊島区
			85.0%	85.0%	12.0%	31.9%

3 自校の課題と改善の方策

教育課題	課 題 (分析・考察によって明らかになったこと)	改善の方策	関連する質問項目（3年生） ※肯定的回答の割合	
言語活動 の充実	・本校では「読書習慣の定着」を重視しており、それによる読解力、表現力、判断力の醸成に努めている。本年度より朝読書タイムを導入し、また各教科で「考え、議論する」ことを進めてきた結果、アンケートも区平均を上回った。ただ、区学力調査における「話すこと・聞くこと」の観点全国比では、1年99、2年103、3年99であり、言語をツールとした意思思考の伝達を実生活上で定着させることが課題である。	・学級単位の授業のみではなく、朝礼、集会などでの大人数の前でも自分の意思などを発言できるよう、機会を設けてきた。そのような中での自己表現スキルは向上してきているが、尻込みしてしまう生徒もいるので、日々の授業で「考え、議論する」ことを継続し、自らの思考をどの程度処理をすれば課題解決なのかを実感させることが重要である。自信を持たせるために、すべての授業で意見が受容され、活発な意見交換ができるような学校文化を醸成していく。	授業の中で話し合ったり、自分の考えを発表したりする機会が多い。	
			自校	豊島区
			71.0%	69.4%
授業におけるICT機器の活用	・3年間の経年変化では、82.5%→80.6%→88.0%と、高い水準で推移している。新校舎落成後間もないこともあり、ICT環境はレベルが高く、各教科で活用できていることが成果である。今後は、エンドユーザーとしての機器活用のみではなく、情報の発信に意識を持たせ、言語活動の充実と連携した「思考発進力」の向上を目指す必要がある。	・ICTを活用し教育効果を上げるには、教師がそれを使って伝えたいことを明確にする必要がある。そのため本時の目標を生徒に周知し、それに基づいたデータ類の提示をするように徹底させる。その中でICTの持つツールとしての有用性を生徒が実感することで、言語活動の充実と連動した思考発進力向上を目指す。また、プレゼンテーションソフトを使用した全員発表を行い、その有用性を実感できる機会を確実に設定していく。	電子黒板やタブレットを活用した授業は活用しない授業よりもわかる。	
			自校	豊島区
			88.0%	69.7%
豊島 ふるさと 学習の 充実	・経年変化では、87.3%→89.3%→87.0%と、高水準を保っている。ISS活動の成果と、地域防災活動の連携を意識して展開したことにより、安心安全な学校はすなわち安心な地域運営の延長上という意識が高まっている。中学生がふるさとを知り、ふるさとのために何ができるのかを考えさせ、そのスキルを向上させるために、オリパラ教育を含めた広い視野で周囲を見る意識を向上させていく手立てを工夫していくことが課題である。	・ふるさととは、そこに住む人々そのもののことである。よって、ISSの取り組みによる防災訓練や、お年寄りとの交流を通じた町会のふれあいグループ活動等において、地域のために何ができるのかを問い、人と人との関わりを感じさせることを重視して行く。また、小学生との連携交流の中でも同じ意義を感じさせ、ふるさとを広く考える意識高揚を図っていく。	自分が住んでいる地域が好きである。	
			自校	豊島区
			87.0%	86.7%
学校 図書館の 充実	・図書室を学習情報センターと銘打ち、タブレットパソコンを設置することにより、書籍と電子データの融合について意識し、知的好奇心を高める工夫をしている。自発的に学習情報センターを利用、活用する生徒は限定的であり、多くの生徒が書籍やネットにおける情報の取捨選択を適切に行い、自らの思考判断に生かすスキルを向上させていく。	・本校は充実した学習情報センターを有するので、図書館を、「ただ本を読む場所」ととらえさせるのではなく、知的好奇心を維持向上させる場所ととらえていく。そのためには、継続して朝読書の時間を重視するとともに、図書委員会の活動を推進し、「学習情報センターでできることや身につけられること」の周知をすすめ、ICT機器を含めた情報収集についての意識向上につとめさせる。	学校や地域の図書館で本を読んだり知りたいことを調べたりすることがある。	
			自校	豊島区
			38.0%	34.1%
道徳教育 の 充実	・「1.自己評価」にも記したとおり、「考え、議論する道徳」について、自己肯定感や自己有用感を向上させる授業展開の重点ととらえ、今後も全校体制で道徳教育の推進を行っていく。また、教科化に伴い、広く道徳的思考を導く教材の工夫と指導展開を加え、どのように道徳的価値の実践力を発展させていくかが、今後の課題である。	・道徳の授業で扱う内容について、他教科や総合的な学習の時間との連携を意識しながら選択・配列し、教育活動の中で系統的に指導していく。その中で生徒の思考表現を保証し、内面に根ざした道徳の実践意欲と態度の成長を支えるため、継続して「考え、議論する道徳」を展開する。	人の役に立つことを、自分から進んですることがある。	
			自校	豊島区
			78.0%	74.8%
体力向上	・アンケートでは肯定回答が区平均を下回ったが、運動のイメージのある「少しくらい辛くても、やりとげる」では、84%となっている。また、オリパラへの興味・関心は69%であり、体力向上意識と国際理解教育との連携・深化を図り、運動能力のみならず、それが他の生活場面と連携していることを理解させることが課題となる。	・心と体は一体であり、双方が健全に成長することを重視する。健全な心身成長の場を担保することがISS活動の根拠的理念であると理解するので、保健体育科の授業はもとより、オリパラ教育、各行事、スクールカウンセラーとの連携を踏まえた、ISS活動と連携した教育活動を展開することで、心身の発達を重視する意識付けを深化させる。	運動することが好きである。	
			自校	豊島区
			76.0%	76.4%
教員の 授業力 向上	・アンケート結果は区平均を若干下回ったが、「学校に行くのは楽しい」の項目で93%の肯定回答、「困ったときに相談できる先生がいる」で81%、「自分は先生から認められている」で79%の肯定回答である。これはベテラン教員はもとより、若手教員についても指導力の高い教員から学び、自ら研究や工夫を旨として展開していることによる。今後もあらゆる機会を捉え、授業力のみならず、全教員の指導力全般を発展、深化させて行く。	・授業改善プランについては読み合わせを行い、全教科での課題や今後の方向性を確認する。また個々の職員の持ち味が発揮できるよう、小中連携研究授業や授業の相互参観など、多面的かつ多角的な研修を進め、各々の職員が自ら研究や工夫を継続できるように進めさせる。	学校の授業はよく分かる。	
			自校	豊島区
			85.0%	85.6%

自由記述（幼小中一貫教育連携プログラム、学力調査とハイパーQUの活用 など）

・小中一貫教育連携……小中連携授業日常の報告・連絡を密にし、学びと育ちの9年間の連続性を見通した授業改善の共通理解を行う。今年度もゴミゼロデーや小学校へのアシスタントティーチャーへの参加、授業体験と部活動体験を行う。

・学力調査とハイパーQU…結果の検討会を各学年で行い、課題を共有し、連携して学力向上と生活指導を改善する。ハイパーQUと学力調査のクロス集計など結果に基づき、研修会を実施し、より活用できるようにしていく。

・家庭学習の取組……能代に学んだ「まとめノート」「家庭学習ノート」を全校体制で取り組み、内容の充実を図る。

・授業における共通理解……「授業のねらい」を授業で必ず明示し、授業の終末に「振り返り」を意識して、自己評価及び相互評価を活用、実践していくよう共通理解を図っている。また、次時への興味関心をつなげる課題提示に工夫を加え、学習情報センターの積極的な活用やICT機器の積極的な活用を行う。